

学校の設備と税金

埼玉県立芸術総合高等学校

三年 落宰 里沙子

私は高校の政治・経済の授業で、国の一般会計の歳入と歳出の内訳について学習した。国の主な歳入には所得税、法人税、消費税があることや、歳出として社会保障や公共事業、文教及び科学振興に使われていることを知った。私は、教育関係の仕事に就きたいと思っていることから、歳出として使われている文教及び科学振興費に興味をもった。調べていく中で、文教及び科学振興費は、教育環境の整備や科学技術の発展のために、5兆4716億円支出されていることがわかった。その内訳には、教科書の無償配付や全国学力調査の実施、国立大学法人・私立学校の助成、スポーツ振興のための「教育振興費」に2兆3086億円が計上され、公立学校の校舎改築などのための「文教施設費」に732億円、修学支援のための「育英事業費」に1178億円、研究開発の振興のための「科学技術振興費」に1兆4092億円が計上されているという。私は、自分の普段の学校生活で、文教及び科学振興費で支援されていることについて考えてみた。最初に思い浮かんだのは、私の学校の施設だ。私に通っている芸術総合高校は、美術科、音楽科、映像芸術科、舞台芸術科からなる学校で、それぞれの学科に専門の教室がある。美術科にはデッサン室、音楽科にはレッスン室、映像芸術科にはコンピューター実習室、舞台芸術科には舞台総合練習場がある。

設備の維持をするには多くの費用がかかると聞いたことがあり、私の学校は公立高校であるため、税金が使われているのだろうと思ひ、ありがたいと思つた。私の所属している美術科では、他にも、油絵室、日本画室、デザイン室、木工室、彫刻室があり、普通科にはない特別な施設を使うことができてゐる。税金があるおかげで、自分の好きな美術を、良い環境で続けられていることを実感した。高校生の一人あたりの年間教育費の負担額は、1129万円と言われていることから、私は、教育費を出し続けていく中で、施設を無料で使えて、備品もそろっている環境は無いと思うので、高校卒業まで、感謝の気持ちを忘れずに、施設を使つていこうと思う。